

# 良心教育



大谷 實  
総長

卒業生の皆さん、ご卒業、誠に改めてとうございます。長年の努力、苦勞が結って、それぞれの課程を無事修了され、新たな人生行路の門出を迎えられたことに對しまして、学校法人同志社を代表して、心からお祝いを申しあげます。本日は、皆さんのご卒業の記念に、同志社の教育理念である良心教育についてお話をし、ご卒業のお祝いの言葉とします。

改めて申すまでもなく、同志社はキリスト教主義の学校であります。学校法人同志社の憲法とも言うべき「寄附行為」の2条では、同志社は、「キリスト教を徳育の基本とする」と謳わ

能ある人物を養成するだけでなく、いわゆる『良心を手腕に運用する人物』を生み出すこと、つまり『良心教育』を同志社教育の究極の理念としたことに由来しています。

もつとも、新島が期待した「二国の良心とも謂うべき人物」、「良心を手腕に運用する人物」が、具体的にどういう人を指すのかは、必ずしも自明のものではありません。確かに、新島自身の期待は明らかです。良心教育とは、「ただ、キリスト教の神を信じ、他者に対する思いやりの情に厚いキリスト教の道徳」によって、「二国の精神となり、活力となり、柱石となる人物」を養成することであり、「キリスト教」を身につけた人間を育てる教育、神の愛を身につけた人物を育成する教育であるという事です。

しかし、新島が良心教育というとき、もう少し広い意味が含まれていたというのが、今日、申しあげたいところです。そもそも良心とは、「何が善であり、何が悪であるかを知らせ、善を命じ、悪を斥ける個人の道徳意識」をいいます。人間の心の中に、善と悪とを区別し、善を選び悪を斥ける意識が誰にも備わっており、その心、意識がまさしく「良心」であると私は考えるのであります。

したがって、人間の倫理やモラル、善や悪に結びつく行動には、常に心の中の法廷としての良心が働き、自分は何をすべき

れています。しかし、同志社は、キリスト教を布教するためにではなく、「二国の良心とも謂うべき人物を養成すること」、すなわち「良心の全身に充滿したる丈夫ますぶの起こり来たらんことを」をモットーとして作られた学園であります。

同志社は、この良心教育の理念のもとに教育・研究を展開してきたのでありまして、今年で130周年を迎え、今では、同志社大学、同志社女子大学のほかに、四つの高等学校、四つの中学校、一つの幼稚園というように11の学校を併設し、3万6千人を擁する一大総合学園にまで発展しました。また、来年には同志社小学校を開設し、幼稚園から大学院までの一貫教育を完成する予定です。

同志社は、このような良心教育の下に歴史と伝統を築いてまいりましたが、果たして、卒業する皆さんは、良心教育によって「良心の全身に充滿したる丈夫」となり、徳性が涵養され、品行が高尚になり、精神が公明正大になったのでしょうか。その達成度は如何でしょうか。卒業式を機会に、自己点検・自己評価をして戴きたいと思えます。

ところで、良心教育は同志社独自の教育理念ですが、この言葉は、校祖新島襄が、教育は一国の大事業であり、「一国の良心とも謂うべき人物の輩出」、具体的には、「徳性を磨き、品性を高尚にし、精神を正しく強めるように努め、ただ、技術や才であるかという答えを求められる。その答えに誠実に従い、勇氣を持って実行することが良心的行動だということです。そうだとしますと、大切なのは、先ず、何が善であり正であるかを自ら判断する能力を常に養うこと、そして、人間の生き方として善悪の判断が求められるような場合には、自ら決断し、勇氣を持って悪を棄て善を選ぶ行動をとること、これが「良心を手腕に運用する」ことではないかと思っております。具体的に、自治・自立の人間、博愛精神にあふれた人間、人間の尊厳（人権）を重んじることのできる人間、そして、今日の国際社会の様々な分野で創造性に富んだ活動のできる人間、こうした人物こそが、今日同志社が求めている人物像であると思うのであります。

そして、大切なことは、人間としての生き方として、「仰いで天に恥じず、伏して地に恥じない」公明正大な人間をめざし、常に良心的行動に徹する倫理・道徳に強い人になるということであります。どうか、卒業生の皆さんも、これからの人生を「良心に満ちあふれた」人物として生き抜いてくださることを期待して、贈る言葉といたします。

# 少にして学べば



八田英二  
大学長

卒業生へのメッセージ

今春、同志社大学は5千人余りの卒業生を社会に送り出すことができました。晴れて学士の学位をお受けになった学部卒業生、そして修士、博士の学位を授与された大学院修了生に、同志社大学長として心からお祝い申しあげます。これまでの皆さんの勉学努力、研究努力に対して深く敬意を表します。その努力が、名前の刻まれた学位記となつて実を結びました。この間、皆さんを温かく支え、見守つてこられたご家族をはじめ関係者の方々にも衷心よりお祝い申しあげます。卒業を機に、今日の皆さんをあらしめてくださった多くの方々に感謝の念を新たにしたいと思っています。

し、キリスト教主義、自由主義、国際主義を高く掲げて同志社大学は教育事業を展開しています。同志社大学での教育・研究活動を終え、皆さんはいよいよ社会に船出されるわけです。この間、皆さんは幅広い専門知識とともに、その知識を活用する知恵を身につけられたことと思います。

入学から卒業までの皆さんの成長が同志社教育の成果です。この間、身に付けられた学術知識は言い尽くせないほどのものと考えます。さらに人間的な成長はご自身でも驚かれるほどのものがあつたと思います。今日の日までには、多くの汗と涙を流されたものと思います。そして青春の多感な数年間、皆さんは多くの出会いを経験されたことでしょう。学窓を去るにあつて、胸に手を当てて考えてください。この間、どれだけの人を幸福にされたでしょうか。また、どれだけの人を許してこられたでしょうか。そして、どれだけの一生付き合える友人を見つけれましたか。友人は皆さんの人生をいっそう豊かなものにしてくれるでしょう。人格の陶冶は終わりのない私たち人間の課題です。

教育事業を強力に押し進め、新島の理想とした自治自立の人民たる卒業生を社会に送り出す卒業の春は、私たち教職員にとりまして大きな誇りであり、このうえもない喜びとするところです。同志社大学の教育に対する信念は「良心之全身二充滿シタル丈夫ノ起り来ラン事ヲ」という良心碑に込められています。時代を問わず、良心碑は同志社教育の原点です。

21世紀に入り数年、時代は混沌の様相をいっそう深めています。この時代が求めているのは、どのような状況でも、つねに

同志社大学の前身、同志社英学校の創立者新島襄は、1864年、国禁を犯して函館から脱国いたしました。その後一年を経て、漸く米国のボストンに上陸いたしました。都合10年の滞米中に、フィリップス・アカデミー、アーモスト大学、アンドーヴァー神学校で研鑽を重ねました。新島の滞在中、運命的な出来事がいくつかありました。そのひとつは岩倉使節団との出会いです。明治政府は廃藩置県を断行するとともに、今後の国家の形を構想すべく、岩倉具視を団長に欧米視察団を派遣したのです。使節団には同志社英学校の設立に多大な貢献をした木戸孝允も加わっていました。使節団は1872年にワシントンに到着しましたが、その際に新島に声がかかり、以後、新島は使節団に同行し、アメリカはもとより、ヨーロッパ各国の教育事情や制度を視察し、報告書を作成しました。

この視察により新島は教育に対する信念の正しさを確信するようになりました。それは、使節団の田中不二麿に述べた次のような言葉に表わされています。「個人が良き市民になるためには、知性的でなければならぬが、知性は道徳的に自己を制することはできない。知性のみで、道徳原理をもたなければ、彼の隣人や社会に善を行うよりも害を及ぼすであろう。彼の鋭い知性はナイフのようになるだろう。彼は隣人を破壊させるだけでなく、自身をも滅ぼすであろう。そのような破壊をきたす知性を抑える道徳原理が存在しなければならぬ。というのは、もし人が道徳原理をもてば、彼の知性を正しく用いることができるからである。」

新島の追い求めた「自治自立の人民の養成」を建学の精神と

自らの生き方を主体的に考える能力をもつた人物です。高く理想を掲げ、主体的に問題解決にあたる創造力溢れる人物の育成は同志社大学の教育目的とするところです。皆さんが同志社大学で身につけられた学術技芸の知識、ここで涵養された独立独行の精神を発揮され、21世紀の社会を率先して切り開かれることを心から願っています。

江戸時代の思想家佐藤一斎は「少にして学べば壯にして為すあり。壯にして学べば老にして衰えず。老にして学べば死して朽ちず」と述べています。ここ私学同志社大学で培われた「学ぶ心」と「新島精神」を見失わず、一步一步着実に歩んでください。そして、どんなときでも同志社大学は皆さんのことを思い、お帰りを温かく待っていることを心に刻んでおくください。ここは皆さんの青春の原点、そして永遠の母校です。

最後になりましたが、学部卒業生ならびに大学院修了生の皆さん一人ひとりの行く末に大いなる期待を寄せて、贈る言葉といたします。

卒業生へのメッセージ

# 世の改良者、 社会の母となられよ



森田潤司  
女子大学学長

同志社女子大学大学院を修了された皆様ならびに同志社女子大学を卒業された皆様にご心からお祝い申しあげます。

今出川キャンパスのジェームズ館にある同志社女子大学史料室では、昨年11月から「女子教育ハ社会ノ母ノ母ナリ」同志社女学校で学んだ女性たち」というテーマで展示が行われており、本学の前身の女学校の卒業生30人が取りあげられています。ハンセン病患者の看護と救済に尽くした井深八重、戦前の中国で貧しい婦女子の教育に尽くした清水美穂、ソウル女子大学を創立した高鳳京、戦後初の総選挙で女性初の衆議院議員となり、女性としてはじめて本会議場で演説した戸叶里子など……。彼女らは活躍する卒業生たちの代表ということになるのですが、大切なことはこの他にも大勢の卒業生が、たとえ世に

広く知られてなくとも、同志社で学んだものを賜にして世のため人のために尽くしているということ。それが私たちの誇りです。その数が増えつつあることはうれしいことです。

今あなた方がそのスタートラインに立たれている。あなた方は磨かれつつある人材です。今や世界に多くの有為なる女性の出現が望まれています。したがって、私たちは、ここに現代日本がもつとも必要としている人材を世に送り出すとの気概であなた方を見送りたいと考えます。

ここで、1887（明治20）年6月19日の同志社普通学校卒業式に際して校長の新島襄が卒業生たちに贈ったメッセージを紹介しましょう。

「諸君よ、今日我が日本の改良は、襄、諸君に望むにあらずして、將た何人にかこれを望まん。然れども、誤つて尊大の思ひを為すなき様慎み、益々勉め、信以て一身を天父に任せ、義以て一軀を邦家に抛ち、志操をして清からしめ、目的をして高からしめ、尚ほ進んで真理の源泉に遡り、學術の奥蘊を究め、歴史の沿革を探り、人事の秘訣を辨へ、泰然として書生の資格を備え、兀然として學者の品位を保ち、英意勇進、些々たる障礙の為に辟易せず、区々たる情実の為に牽制せられず、天父の諸君に負はせ給ひし所の義務を尽し、自分を竭し給はん事、襄の諸君に向ひ切望して止まざる所なり。諸君よ、襄、宿痾の爲め遠く東夷にあり、卿等が卒業の式に臨むを得ずるは、深く遺憾とする所なり。諸君よ、希くは益々遠大の策を立て、身靈を安全に保護し、襄をして再會の機を得せしめよ」

（皆さん、今日の日本の改良は皆さんに期待しないでいったい誰に期待すればいいのでしょうか。けれども誤つて思いあがることのないように謙虚になり、ますます努力してください。信頼して一身を神に委ね、正義の心をもつて一身を国家に投げ出してほしいのです。また志を堅くもつて高尚にし、目的を高く掲げ、さらに進んで真理の源泉にさかのぼり、学問を奥深くまで究め、歴史の流れを探ってほしいものです。さらに人間社会の奥義を十分に知り、落ち着いて学ぶ者としての資格を備え、平然として学問する者の品位を保ち、専心して勇気を持って進んでいただきたいものです。わずかな障害のためにしりごみせず、またわずかな事情のために行動の自由を奪われたりせず、神から皆さんに与えられた義務を尽くし、本分を尽くすことを切望して止みません。以下略）

新島は今から118年前の男子卒業生にわが国を担って欲しい、社会の改良を担って欲しいと熱望してこの言葉を贈ったのですが、敢えて、今、女子大学を卒業されるあなた方に紹介します。新島は女性にも世の改良を期待していたからです。たとえば、日本基督教婦人矯風会が同志社大学設立運動のために協賛音楽会を開いて募金し収益を寄附した際、婦人矯風会の書記だった佐々城豊寿に募金のお礼を述べるとともに、女性の権利拡張を訴え、「あなたたちは決して失望することなく、倦むことなく、懼ることなく、断然世の改革者と成られよ、いや世の改良者と成りて働かれよ」と激励しました。これはあなた方への新島の激励でもあります。先のメッセージと合わせて受け止めていただきたいものです。

私としてもいまやあなた方卒業生に期待したいと考えます。どうか社会の改良者、社会の母となつていただきたいものです。

気概を持つて欲しいのです。しかし、無理を強いるつもりはありません。そのわけは、たとえ一見平凡に見える生活でも、その日々を懸命に過ごしているうちに、その積み重ねが大きな成果となった例は枚挙に暇がないからです。女性らしく肩肘はらずにしなやかに生きて欲しいと思うからです。ただし、薄っぺらなものに眼を向けてはなりません。一人ひとりが輝く女性になつていただきたいと思えます。そのためには、日々の暮らしを大切にすることです。日々の営みが世の人のためになるかを常に心の奥深く留めておくことです。それが輝く女性になつて行く道であり社会の改良者、社会の母となつて行く道でしょう。

私たちの学校のなかに伝統としてあるリベラルアーツの精神を私たちは永遠に失つてはなりません。本学の学びは、たとえば単に文学を学んだ、それだけで卒業していくようにはなつていないはずですね。リベラルアーツは自らを磨く学問でした。そして自立した人になるために学問することでした。自立した人とは他者のことをも考えることのできる人です。リベラルアーツのめざすものは、卒業後も求め続けていくものです。卒業するあなた方も、送り出す私たちも一生かかって求めていかねばならないものです。学問とは机に向かつてするだけのものではありません。日々の営みそのものが学問です。共に頑張りましょう。共に求めていきましょう。自立し輝く人となるために。そして、日々のたゆまぬ営みの結果として、社会の改良者、社会の母となつたとしたら、うれしいことではありませんか。

最後になりましたが、皆さん一人ひとりの健康と幸福を心からお祈りして、卒業生の皆さんをお送りする言葉といたします。